

採集記録・観察記録

北海道十勝地方浦幌町でのウズラの確認記録

持田 誠¹⁾・百瀬 邦和¹⁾

Makoto MOCHIDA & Knikazu MOMOSE, 2020. New Record of *Coturnix japonica*
in, Urahoro, Tokachi region, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 20: 35-37.

はじめに

ウズラ *Coturnix japonica* はキジ科ウズラ属に分類される小型の草原性鳥類である。もともと伝統的な狩猟鳥だったが、明治中期から家禽としての飼養「養鶏」がはじまり、一般には鶏卵と並んで食用卵として広く知られている（奥山 2005）。しかし、野生のウズラは、全国的には1960年代から狩猟シーズンの捕獲羽数が減少傾向にあり、特に1980年代に激減した（木村 1991）。一方、北海道での最多捕獲年代は1960年代と、本州以南よりも遅かったが、やはり以後同ような減少傾向にあるとされる（奥山 2004）。

筆者のうち百瀬は、2019年夏に、浦幌町の静内川沿いでウズラに遭遇した。浦幌での確認事例は近年きわめて少ないので、記録として報告する。

確認状況

確認地点は、北海道十勝郡浦幌町字下浦幌、静内川右岸の未舗装の堤防道路上（42°44'55"N, 143°40'00"E）である（図1）。確認日時は2019年8月24日15時30分ころ。確認したのは1羽で、道路脇でウロウロしていたところを、自動車のフロントガラス越しに写真を撮影した（図2, 3）。筆者が道東でウズラを実見のは、これが初めてである。

浦幌周辺での確認記録

浦幌野鳥倶楽部の観察記録によると、浦幌では、1994年7月2日、1996年7月13日に平和の草地（浦幌野鳥倶楽部 2000）、2000年に愛牛の草地、2006年1月8-9日に豊北の河川敷（浦幌野鳥倶楽部



図1 2019年8月24日のウズラ確認地点（●のところ）
国土地理院地勢図1:200,000「帯広」に加筆



図2、図3 2019年8月24日に確認されたウズラの写真。2枚とも同一個体。百瀬邦和撮影。

1) 浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16

2) タンチョウ保護研究グループ 〒085-0036 北海道釧路市若竹町9-21



図4 2012年12月15日に浦幌町豊北で確認されたウズラ2羽のうち1羽の写真。円子紳一氏撮影



図5 2012年12月15日に浦幌町豊北で確認されたウズラ2羽の写真。円子紳一氏撮影

2009)で観察されている。なお、いずれも繁殖は未確認とされる(浦幌野鳥倶楽部 2000、2009)。

また、2012年12月15日に、浦幌町の豊北付近において円子紳一氏の観察記録があり(未発表)、写真が残されている(図4)。このときは2羽が一緒に確認されている(図5)。

十勝地方全域での繁殖期におけるウズラの生息状況については、藤巻(2010)が1976-2009年までの、観察および文献記録をまとめており、浦幌町からも1件が記録されている。

環境省の2002年以降の調査では、2012年6月に、

隣接する豊頃町における確認が報告されているが、ここでの浦幌町からの確認はなく、(環境省 2014a) 前後の調査を集計した奥山(2005)の分布図も十勝川河川敷付近に記録があるのみである。

なお、東十勝地方での記録としては、幕別町の依田公園で1984-97年の間に確認が報告されている(エコネットワーク 1997)。近接の地域からは1970~90年代に大樹町の記録があるが(飯島1986、1998)、音別町など釧路側の記録はみられない(藤巻 2010)。

これらの記録のうち、特筆されるのは冬の観察記録であろう。ウズラは、北海道以北では夏鳥として飛来し、本州中部以北で繁殖するとされている(清棲 1978)。実際、環境省(2014a)における越冬期の記録は、本州中部以南に限られ、道内での冬の確認事例が無い。

このため、2006年1月(浦幌野鳥倶楽部 2009)と2012年の確認記録(円子、未発表)は、北海道では稀な冬の確認事例といえるだろう。

課 題

環境省は1998年に環境省レッドリストへ情報不足種(DD)として初めて登載し、2007年改訂で準絶滅危惧種NT(準絶滅危惧種)に指定した。このとき同時に狩猟禁止となった。さらに、2012年の第4次改訂によって絶滅危惧II類(VU)とされ、この翌年に狩猟鳥から除外されている(環境省 2014a)。

さまざまな報告から、ウズラは近年、減少傾向にあると考えられている(環境省 2014a, b; 高野 2015)。河井ら(2003)は、「かつては全道で広く繁殖していたが、近年著しく減少し、姿のみられなくなった地域が多い」と記している。

環境省はレッドデータブックにおいて、「存続を脅かす要因」として「草地開発、河川敷の樹林化、やレクリエーション用地としての利用など、繁殖地や越冬地における生息環境の減少や悪化」を指摘する一方、「狩猟による影響については不明」と記している(環境省 2014b)。木村(1991)も、日本の野生ウズラの場合には乱獲の記録がみられず、減少の要因は生息地の環境の変化や汚染である可能性を指摘している。

このため、浦幌周辺の生息状況や、生息環境の実態について、科学的な検証が必要と思われる。今後、浦幌野鳥倶楽部の最近の観察記録が2020年中にも刊行される見込みであり、こうした新たな観察記録もまじ

えて一帯の生息状況を把握し、生息環境の変化について調査・考察する必要がある。

謝 辞

浦幌町の円子紳一氏には、2012年に撮影したウズラの写真および情報を提供いただいた。深謝する。

引用文献

- エコネットワーク, 1997. 幕別生きもの調査報告書、64-102. 幕別町教育委員会, 幕別.
- 藤巻裕蔵, 2010. 北海道中部・南東部におけるウズラの繁殖期の生息状況. 日本鳥学会誌, 59: 55-60.
- 飯嶋良朗, 1986. 大樹の鳥:大樹鳥類目録. 自費出版.
- 飯嶋良朗, 1998. 大樹の鳥II. 自費出版.
- 環境省, 2014a. ウズラ調査マニュアル. 環境省, 東京. 26pp.
- 環境省2014b. レッドデータブック2014:日本の絶滅のおそれのある野生生物2鳥類, 160-161. ぎょうせい, 東京.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳, 2003. 北海道野鳥図鑑. 亜細亜社, 札幌. 399pp.
- 木村正雄, 1991. 野生ウズラのツキ網猟および日本における野生ウズラの捕獲羽数の推移に関する考察. 日本家禽学会誌, 28: 166-169.
- 清棲幸保, 2001. 増補改訂版日本鳥類大図鑑II, 735-739. 講談社, 東京.
- 奥山正樹, 2004. 狩猟鳥ウズラ *Coturnix japonica* の現状. 山階鳥類学雑誌, 35: 189-202.
- 奥山正樹, 2005. 北海道におけるウズラの現状を探る. 北海道野鳥だより, 139: 4-7.
- 高野伸二, 2015. フィールドガイド日本の野鳥 (増補改訂新版), 194-195. 日本野鳥の会, 東京.
- 浦幌野鳥倶楽部, 2000. 浦幌鳥類目録. 浦幌野鳥倶楽部事務局, 浦幌. 37pp.
- 浦幌野鳥倶楽部, 2009. 浦幌鳥類目録第2版. 浦幌野鳥倶楽部事務局, 浦幌. 37pp.